

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果  
作成日

平成23年6月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770801682		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	たのしい家田辺		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市東住吉区田辺2-11-43		
自己評価作成日	平成23年4月8日	評価結果市町村受理日	平成23年9月8日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	<a href="http://osaka.kaigokouhyou.jp/otasuke/start.action">http://osaka.kaigokouhyou.jp/otasuke/start.action</a>
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ケア・ウィル
所在地	大阪府吹田市千里丘下20-16
訪問調査日	平成23年4月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で入居者が出来る事や支援したら出来る事を探し、役割を持ってもらい、毎日の時間を決めた体操(参加は本人の希望による)を行い、生き生きとした生活を過ごしてもらえるよう支援しています。また、本人主体、自己決定が出来るよう入居者様の意向に添いながら個別対応をしています。毎日の散歩や月に最低1回のイベントを企画したり、毎月の装飾作り(季節を感じてもらえる作品)を入居者様と共に制作しています。健康面では、毎日の健康チェック(血圧・脈・体温)、水分量・食事量・排泄回数・薬の管理等を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホーム内に法人理念と事業所独自の理念を掲示し、「生き生きと住み慣れた地域で暮らす家」をモットーに、職員が入居者の残存する生活動作能力を踏まえて、生き生きとした生活の維持に努力している。地域の催事に参加し、職員も地域の一員として行動して近隣との連携を図っている。ホームでの宿泊・食事の持ち込みを許可し、家族、友人、知人等が日頃から気軽に面会に来られるよう努めている。入居者の行動や様子、表情からその思いや意向を汲み取り、入居者にとって一番良い方法について職員間で検討し、本人の希望に極力添えるよう支援をしている。協力内科医以外に歯科医の往診や口腔ケアもあり、訪問看護師による健康管理も行なわれており、その他眼科耳鼻科等の医療機関への受診には訪問看護師が職員が通院介助を行なっている。終末期については本人や家族の希望を聞き取り、状態が変化する都度話し合い、安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。食事は業者から届く食材を職員が手作りで調理しており、季節感ある献立を用心している。また、入居者の誕生日等にはとても大きい手作りのケーキやおはぎでお祝いをしている。餅つきの日、ぼた餅作りの日を設定し、入居者が自ら手作りを体験して楽しめるようにもしている。浴室の壁に花の絵をパウチして貼るなど、入浴を楽しませる雰囲気作りも行なっており、入浴時間等一人一人の希望を聞き、柔軟な対応をおこなっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が見える場所に掲示している。暗記している職員もいる。	ホーム内に法人理念と事業所独自の理念を掲示し、職員は常に理念に基づいて業務に従事している。「生き生きと住み慣れた地域で暮らす家」をモットーに、入居者の残存する生活動作能力を維持し保ち、生き生きした生活の継続に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント（地域の花見等）や、地域のデイサービスを利用している。	町内会や盆踊り、花火大会、夏祭り等に参加し、職員も地域の一員として行動して近隣との連携を図っている。散歩や地域の催物に参加して、地域の方と顔見知りになって交流を深めている。出前も各部屋まで届けてもらい、直に触れ合うようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	徒歩で行ける食堂などに行き、認知症を理解してもらうように努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの報告をしている。また、意見や要望等を取り入れ、改善策を次回に報告している。	定期的に地域包括支援センター、家族、他の施設管理者、本部職員等と会議を開き、利用者の現状について話し合い、時にはアドバイスを受け、支援に活かすようにしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	介護フェスティバル等に展示物を掲示したり、準備の手伝いなど積極的に行っている。	介護フェスティバル、フォーカス相談窓口、町内会デイサービス等に参加して、地域ネットワークの役員や地域包括支援センター、地域包括委員・認定調査委員等と連絡を取り合い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	職員共に身体拘束の研修を行い、しない、させないようにお互い注意し合っている。	表玄関は他の提携事業所と共有していることもあり、常に開放している。共有スペースからの入口は暗証番号で開閉出来るようになっている。出来るだけ行動を抑制せず、いつもフロアには職員が一人は残り、見守りをしている。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、施設内でも入浴時や更衣中に身体の状態等、精神面での状態を把握するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用している入居者様がいるので、必要性は話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の解約時は、事前に話し合いを持ち、疑問点や不安の解消に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見を推進会議等で外部者に表している。意見などの改善案は次回に改善策として提示する。	意見箱を入口に設置し、家族からも意見を出しやすいように配慮している。また、家族の来訪時には声をかけ、日常の報告を実施している。運営推進会議にも参加してもらい、意見や要望を聞きとって運営に反映させようと努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、意見交換をしている。	朝礼や月1回の会議で職員から日常の業務に関する意見を聞く機会があり、その解決が速やかに出来るように法人本部との連携が取れる仕組みとなっている。職員からの企画は会議で検討され、一週間程度試験的に実施し、本部に承諾をもらったうえで実行している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度により、努力、実績に応じて給与が上がることもある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内を回覧板で廻している。希望する場合は時間調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	区内グループホーム連絡会で交流している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に職員が生活歴や性格などを把握して、本人が安心できるような支援をする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・疑問点等を解消し、また、要望を聞き、良い関係作りが出来るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に必要な支援を行うためにも、家族や本人の実情・要望等を把握するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている能力を引き出し、今できることを共に行っている。また、支援をしたら出来ること等を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人の日頃の状況等を伝えている。また、毎月状況報告を郵送している。		
20	8	○馴染みの人や場の関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時は馴染みの者を持参できるよう家族に伝えている。家族の了解があれば自宅を訪れたりしている。	ホームでの宿泊・食事の持ち込みを許可し、家族、友人、知人等が日頃から気軽に面会に来られるよう努めている。生活歴・趣味等を聞き取り、入居者本人が大切にしているものを把握し、馴染みの場所に出かけるなど細やかな気配りがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、孤立を防ぐためにも職員が仲介役等をして円満な関係作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談や支援に努めている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿うように努めている。	入居者の行動や様子、表情からその思いや意向を汲み取り、入居者にとって一番良い方法について職員間で検討し、本人の希望に極力添えるよう支援をしている。今は遠方の出身地に行ってみたいという入居者がおり、その願いを叶えるべく検討中である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、職員と家族でこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自尊心を傷つけないように、出来ることや支援したら出来る能力を把握する。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向を聞き、カンファレンスで方向性を見出し、介護計画を作成している。	入居者の状態、状況の変化などを月1回の会議で話し合い、ケアマネジャーが取りまとめ、入居者本人や家族の要望、職員の気づきや意見を反映させて介護計画を作成している。入居者本人や家族の要望を細かく反映していくことで、より理解を深めるよう努力している。状態に変化が生じた場合には随時見直し、現状の状態にあったサービス提供が行われるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・バイタル・排泄・水分量を記録している。情報を職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ柔軟な対応をするように職員間で取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の食堂や地域のイベントに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2人のかかりつけ医が定期的に往診に来られる。	入居時、入居者本人や家族にホームの協力医について説明し、かかりつけ医にする了解を取っている。急変時には協力医の紹介で大きな病院で適切な医療を受けることができる。医師の定期的な往診があり、他の医師の受診が必要な時は紹介状を書いて速やかに適切な診療を受けることができる。歯科医の往診や口腔ケア、訪問看護師による健康管理も行なわれていて、その他の受診には訪問看護師または職員が通院介助を行なっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	健康面での気づきは、看護婦に報告し、受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院に面会時等に情報を得ている。また、家族様と共に主治医と話を聞いたりしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医と家族と施設で方針を決めている。家族と入居者様の要望を優先している。	終末期については入居者や家族の希望を聞き取り、状態が変化する都度話し合い、安心して納得した最期を迎えられるように取り組んでいる。看取りの経験はまだないが、重度化や終末期に向けた方針について入居者家族や医師と確認を取り、できる限りの対応と支援を行なえるように連携が取られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急訓練や研修を行い、急変時に対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、全職員が対応できるように努めている。	緊急時の対応方法についてはマニュアルがあり、年2回の避難訓練を行なっている。実際に避難経路の階段を入居者を職員が背負って下りる等の実践的な訓練も行なっている。	避難訓練の内容は充実しており、今後は地域との協力体制を築くと共に、夜間を想定した避難訓練が実施されることに期待したい。また、災害時に備えて食料や飲料水、トイレ、寒さをしのぐための災害備蓄品の準備、消火器や避難経路の確保などの設備点検の強化に期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自の生活歴・性格を把握し、その人の人格を尊重する声かけをしている。	入居者の尊厳を尊重し、プライドを傷つけないような対応を心がけている。排泄についても利用者を思いやり、さりげなくエスコートし、見守りなどの援助を行っている。入居者への声かけの際はその人に合わせた言葉使いを行なっている。職員は入居者のできる事を見出し、本人の自尊心を大切にしている。	職員各々が意識しているも、日常業務の中で職員の対応にばらつきが生まれることも考えられる。職員が互いの言動にも気を配りあい、具体的な声かけの方法について職員間で再確認して共有する事で、さらに質の高いサービスの提供に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	要望・希望を取り入れ、自己決定できる支援をしている。また、選択できるように配慮をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人主体に考え、入居者様が望む生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問理容を利用している。服装は好みを尊重しているが、季節に合わない等は声かけをしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や盛りつけは役割が決まっております。自ら準備をする入居者様もいる。	日常の献立は、栄養バランスやカロリー計算された食材を業者からの宅配で受け取り、職員が調理している。入居者には個々の状態にあわせて盛りつけや配膳等の役割が与えられている。季節感ある献立や行事食にも力を入れており、入居者の誕生日には大きな手作りケーキやおはぎでお祝いしている。食事は入居者と職員が同じテーブルで行なっており、談笑しながらの穏やかな雰囲気である。餅つきの日、ぼた餅作りの日を設定し、入居者が自ら手作り楽しむこともできる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記入しており、摂取できていないときは摂取できるよう工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科医が往診で口腔ケアをしている。就寝時や起床時・食後は口腔ケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄のパターンを把握し、トイレ誘導や声かけなど行っている。	排泄チェック表を作成して一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導を行なっている。3時間以上トイレに行っていない入居者には、さりげない声かけを行なっている。男性入居者も比較的多いため、トイレの汚れで他の入居者が不快な思いをしないように随時清掃している。歩行力の弱い方もなるべく自分でトイレに立てるように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気をつけている。便秘時はDr. 看護師に相談する。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯や曜日設定しているが、本人の要望があれば浴うように対応している	浴室の壁に花の絵をパウチして貼るなど、入浴を楽しませる雰囲気作りも行なっている。また、入浴時間等一人一人の希望を聞き、柔軟な対応をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に応じ言葉支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の対応をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干しやたたみ等、または、食事の準備の役割を決め、張り合いのある生活を送れるよう支援している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩に行くが、個別に行きたい所にいける支援をしている。また、地域の花見等に参加している。	月に一度は様々な企画を立てて外出や外食を行っている。毎日近隣の公園への散歩を日課としている入居者もいる。随時、駒川商店街等へ買い物にも行っている。季節毎にバスで出かけた時、時には遠出をしたり、個々の希望に応じて個別支援にも力を入れている。地域の花見に参加したり、運動会、ボーリングなどのレクリエーションを楽しんだりしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ちたいと希望される入居者様にはお金を持ってもらおう。買い物時は自分で支払っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人や家族の要望があれば支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じてもらえるように季節の装飾作りを共に制作している。	リビングは日当たりが良く明るく、入居者手作りのカレンダーや貼り絵が飾られている。玄関には、職員の写真が掲示されており、入居者や家族に分かりやすくなっている。食堂の壁には、手作りの大きな木が貼ってあり、四季折々の飾りつけがされており、季節感を出す工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設置しており、自由に気のあった同士や職員と話をしたりしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族の要望を取り入れている。	入居者が今まで使ってきた思い出深い物、鏡台、位牌、仏壇等を持ち込んでもらい、本人の個性が生かされた、居心地よく過ごせる空間になっている。ベッドに慣れていない入居者には床との段差を無くした畳を敷いている。掃除は入居者本人が、必要であれば職員も一緒に行い、清潔に保たれている。各居室には温度計・湿度計を設置し、空調に注意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	出来ることや支援したら出来ることを把握し、自立した生活を送れるよう支援している、.			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>V アウトカム項目</b>					
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の	
				②利用者の3分の2くらいの	
				③利用者の3分の1くらいの	
				④ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	
				②数日に1回程度ある	
				③たまにある	
				④ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が	
				②利用者の3分の2くらいが	
				③利用者の3分の1くらいが	
				④ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が	
				②利用者の3分の2くらいが	
				③利用者の3分の1くらいが	
				④ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が	
				②利用者の3分の2くらいが	
				③利用者の3分の1くらいが	
				④ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が	
				②利用者の3分の2くらいが	
				③利用者の3分の1くらいが	
				④ほとんどいない	
62		利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が	
				②利用者の3分の2くらいが	
				③利用者の3分の1くらいが	
				④ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と	
				②家族の3分の2くらいと	
				③家族の3分の1くらいと	
				④ほとんどできていない	
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように	
				②数日に1回程度	
			○	③たまに	
				④ほとんどいない	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない		
66		職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない		
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない		
68		職員からみて、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない		